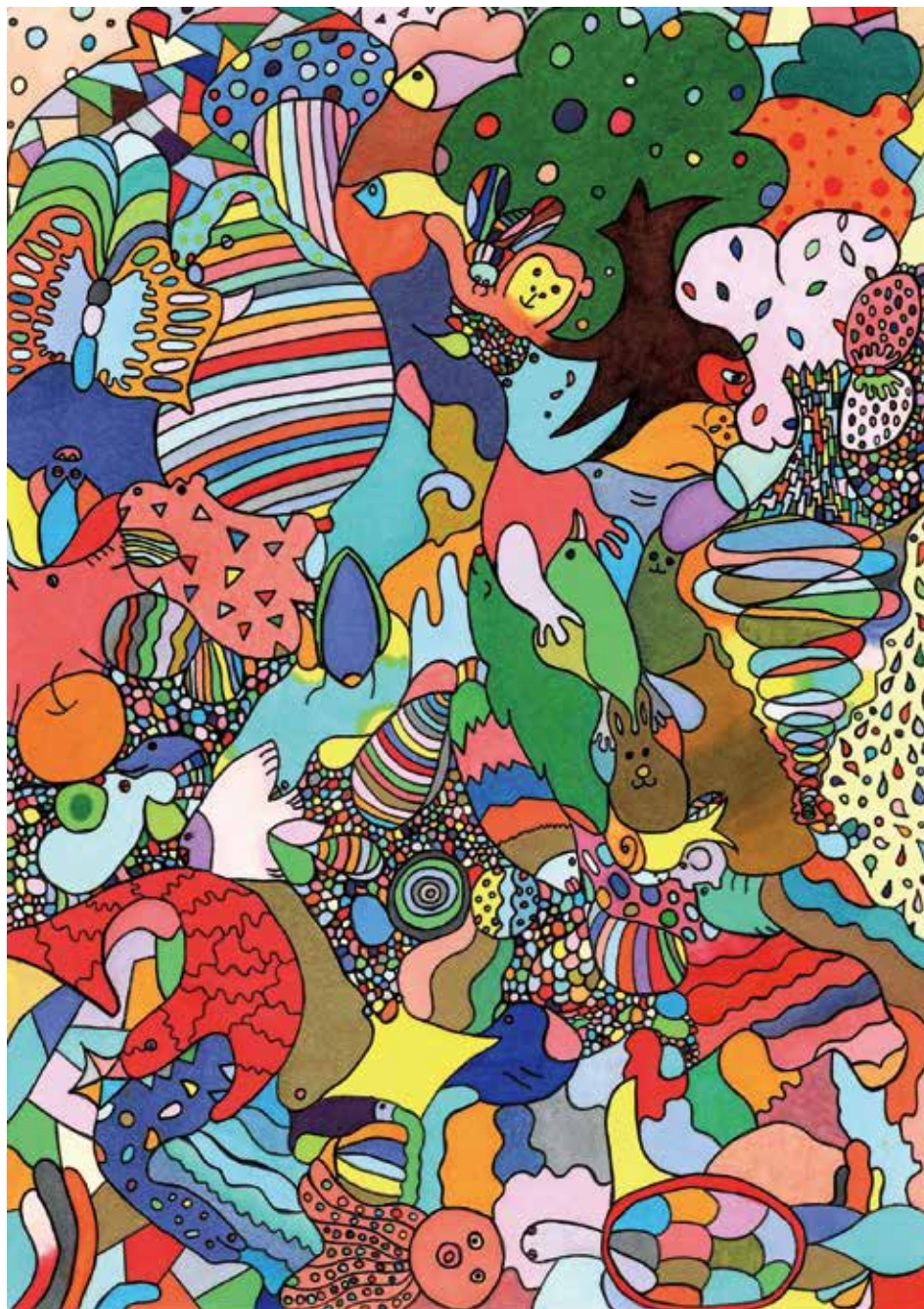


CSR コミュニケーションレポート

2021

C ommunication
S DGs
R elationship



一般社団法人障がい者アート協会運営「アートの輪」出展作品
「カラフルでゆかいな仲間たちシリーズ」
千葉 由佳里 様

トップメッセージ

グローバルウェルネスカンパニーの実現

次の100周年に向けて、毛髪・美容・健康・医療の「グローバルウェルネスカンパニー」を目指し、「世界のブランド アデランス」を実現してまいります。



株式会社アデランス
代表取締役会長
ファウンダー（創業者）
根本 信男

男性用オーダーメイド・ウィッグの専門店として日本で創業した当社は、現在では、国内だけでなく、アメリカ・ヨーロッパ・アジアなどの海外でも事業を行う、男性用・女性用ウィッグ、毛髪移植、ヘアシステムなどのトータルヘアソリューション企業となりました。

活動地域は、現在20の国と地域となり、約6,800名の社員がグローバルな活動を広げています。それにとまない、企業としての社会的責任にもグローバルな視点が必要不可欠となっています。

また、先般の新型コロナウイルス感染拡大で人々の生活や社会が大きな変化を余儀なくされる中、これまで以上にESG（環境、社会、ガバナンス）や、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた中長期視点での取組み・事業活動の進化が重要と考えます。

このような中、「世界の人々の笑顔と心豊かな暮らしに貢献する」という経営理念を軸に行動し、社会的価値の新たな創造に挑戦してまいります。



株式会社アデランス
代表取締役社長
グループ CEO
津村 佳宏

北米
アデランス・アメリカ・ホールディングス社
アデランス・ヘア・グッズ社
ボズレー社
ヘアクラブ社
アメコア・インダストリー社
エステティカ・デザイン社



ヨーロッパ
アデランス・ヨーロッパ社
アデランス・フランス社
アデランス・ドイツ社
アデランス・ベネルクス社
アデランス・ユーケー社
アデランス・スウェーデン社
アデランス・トータルヘアソリューション・イベリア社



Aderans
愛徳蘭絲

Aderans
愛徳蘭絲

アジア

アデランス上海社
アデランス上海貿易社
アデランス香港社
アデランス台湾社
アデランス韓国社

アデランス・シンガポール社
アデランス・トータルヘアビューティソリューション社
アデランス・タイ社
ワールド・クオリティ社
ラオ・クオリティ社
アデランス・フィリピン社

日本
アデランス
アデランスメディカルリサーチ
パルメッセ
ハイネット
ライツフォル
アデランスバイオ



(2021年8月末現在)

経営理念

私たちアデランスグループの最大の使命は
毛髪・美容・健康のウェルネス産業を通じて
世界の人々に夢と感動を提供し
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです

私たちが目指すもの
「最高の商品」
「最高の技術と知識」
「心からのおもてなし」

沿革

アデランスは、1968年に男性用オーダーメイド・ウィッグ専門店として創業以来、「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思いで、常に新しい価値を創造し続けてきました。

1968

男性用ウィッグ専門
「個人商店アデランス」を創業



1978

子どもたちに笑顔を
「愛のチャリティ」スタート



1979

型取り（フィッター）を開発



1972

テレビCMをスタート。男性用
ウィッグの存在を社会に広める



1974

全面人工皮膚のウィッグ
「AS-1」の販売を開始



注）写真は「AS-3」

1976

装着方法に革命を起こした
ワンタッチ商品「AQ-15」を発売



1980

全国技術競技大会を開催



1983

人工毛髪の研究開始



1985

文化芸能活動が大きく加速
スタジオAD誕生



1986

アデランス・タイ社設立



1991

人工毛髪の商品化
「サイバーヘア」商品を発売



1999

タイ工場
ISO9001/ISO14001取得



2001

米国毛髪移植のボズレー社を
グループ化



2002

病院内ヘアサロンの1号店をオープン



2009

ウィッグの回収と自然を結ぶ
「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」



2013

輝く女性への応援を開始



2015

世界初の国家基準化
医療用ウィッグ JIS規格制定



2016

美容領域へ進出
ビューステージブランド誕生



2017

フォンテーヌの全国ロープレ・
スタイリング大会を初開催



2020

光触媒技術を活用した
衛生事業を開始



アデランスグループの主な変遷

1969	アデランス社を設立 1968年創業	2001	ボズレー社をグループ化 1974年創業、ボズレー・メディカル・インスティテュート社 (1989年創業)、ボズレー・メディカル・カナダ社(1997年創業) を2001年にグループ化しボズレー社に統合、エム・エイチ・ アール社(1999年創業、2007年グループ化)	2013	ヘアクラブ社をグループ化 ヘアクラブフォーメン社 (1976年創業、2003年ヘアクラブ社と統合)
1985	フォンテーヌ社をグループ化 1970年創業 (2003年アデランス社と統合)	2002	アデランス・シンガポール社 アデランス・フィリピン社を設立	2014	アデランス・ラオス社(現：ラオ・クオリティ社) を設立
1986	アデランス・タイ社を設立	2005	アデランス・ユーケー社をグループ化 アデランス・スウェーデン社をグループ化 アデランス・シンガポール社を設立	2016	ライツフォル社をグループ化(2003年創業) ハイネット社をグループ化(1960年創業)
1990	アデランス台湾社を設立	2009	アデランス・ヘア・グッズ社をグループ化 インターナショナル・ヘアグッズ社(1968年創業、1987年グルー プ化)、ルネ・オブ・パリス社(1971年創業、1989年グルー プ化)、ニュー・コンセプト社(1991年創業、1998年グルー プ化)、ジェネラル・ウィッグ社(1963年創業、1998年グルー プ化)、アデランス・リテイリング社(2001年創業)を統合	2017	アデランスメディカルリサーチ社を設立 アデランス香港社を設立
1992	ワールド・クオリティ社を設立	2018	アデランス・シンガポール社 アデランス・フィリピン社を設立	2018	アメコア・インダストリー社をグループ化 (1980年創業) エステティカ・デザイン社をグループ化 (2005年創業) アデランス・トータルヘアソリューション・イベリア社を設立 アデランス・トータルヘアビューティソリューション(タイ)社を設立
1992	アデランス・フランス社、 アデランス・ドイツ社、 アデランス・ベネルクス社をグループ化 カムフレックス・フランス社(1952年創業)、ヴァン・ノイ エン社(1925年創業、1994年グループ化)、カムフレックス・ ドイツ社(1966年創業)、モンフェア・モーデン社(1986年 創業)、カムフレックス・ベルギー社(1962年創業)	2019	アデランス韓国社を設立	2021	アデランスバイオ社を設立

会社情報

商号 株式会社アデランス
 (英文名称: Aderans Company Limited)
(記載がないものについては、すべて2021年8月末時点の数値)

本社 〒160-8429 東京都新宿区新宿一丁目6番3号

設立 1969年(昭和44年)3月1日

資本金 1億円

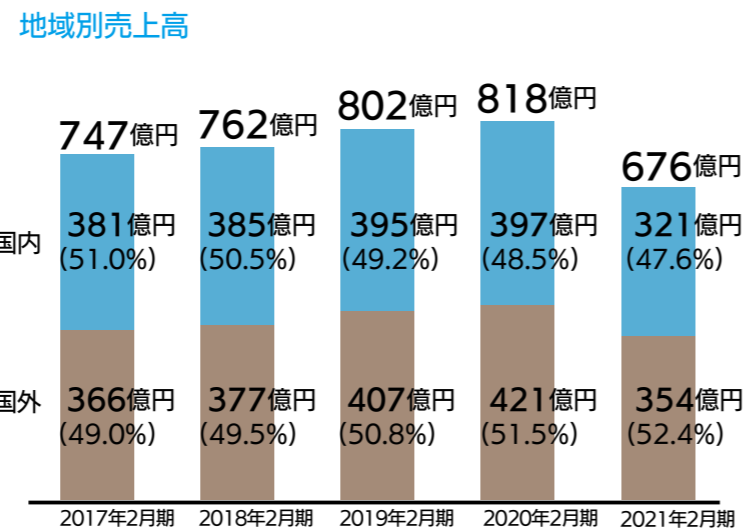
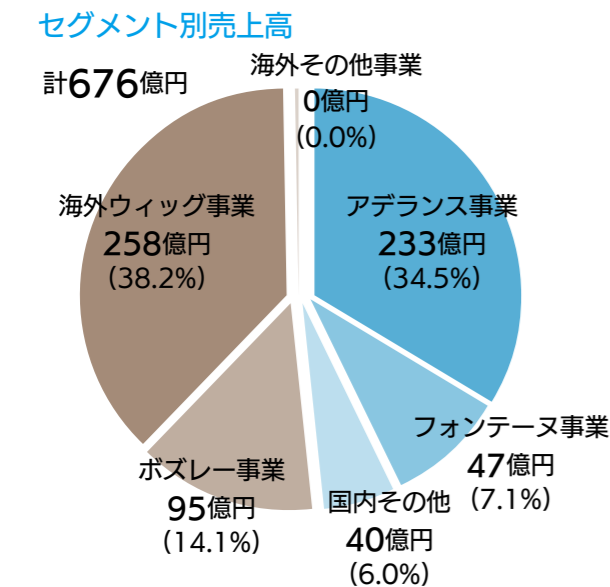
主要事業 毛髪関連事業、ビューティ&ヘルス事業、グループ会社の経営管理ならびにそれに付帯する事業

グループ会社数 67社 非連結子会社等を含む

地域別社員数 国内 2,630名 国外 4,188名

店舗数	国内	国外
アデランス	491店舗	297店舗
フォンテーヌ	165店舗	193店舗
病院内ヘアサロン	223店舗	36店舗
その他	34店舗	68店舗
	69店舗	

業績ハイライト (連結ベース、2021年2月期)



※「国内その他」には、美材ルート事業、医療事業、通信販売事業、ハイネット社等が含まれています。
 ※記載金額は表示単位未満切り捨て、比率は少数第一位未満を四捨五入で表示しており、合計が一致しない場合があります。

取締役・監査役 (2021年5月27日現在)

取締役
 代表取締役 会長 ファウンダー(創業者) **根本 信男**
 代表取締役 社長 グループCEO **津村 佳宏**
 取締役 専務執行役員 海外事業本部担当 **古川 政明**
 取締役 専務執行役員 国内事業本部担当 **陰山 昌利**
 取締役 常務執行役員 管理本部担当 **川口 喜八郎**
 社外取締役 **高野 一彦**
 社外取締役 **山本 礼二郎**
 社外取締役 **山崎 壯**
 社外取締役 **田中 宏司**
 社外取締役 **山田 雅徳**

監査役
 常勤監査役 **關 桂三**
 社外監査役 **関 善之**
 社外監査役 **品川 広志**

コーポレート・ガバナンス

アデランスグループは、コンプライアンスの重要性を認識し、経営の透明性向上を重要な課題の一つであると考え、内部統制機能の強化・整備を図りながら、コーポレート・ガバナンスの充実に努めてまいります。

社内向けハンドブックの発行



当社は、グループ社内にコンプライアンスに関わる周知し、社員の意識向上を行うため、2021年10月にコンプライアンスハンドブックを発行しました。

このコンプライアンスハンドブックでは、「健全な職場環境」「誠実な企業活動」「会社資産の保全」「社会とのかかわり」の分野・32の項目に渡り、「行動指針」「私たちの約束」を定め、経営層から社員一人ひとりまでに正しい理解と徹底した遵守の取組みを通じて、グループ全体としてコンプライアンス意識の浸透に努めています。

- 主な項目例**
- ・基本的人権の尊重
 - ・ハラスメントの禁止
 - ・プライバシー・個人情報の保護
 - ・お客様に対する誠実な活動
 - ・インサイダー取引の禁止
 - ・海外現地法規の遵守と文化・習慣の尊重

コンプライアンスハンドブックを発行するに至った経緯については、23ページ「ステークホルダー・ダイアログ」をご参考ください。

コンプライアンス研修の強化

当社は、社員のコンプライアンス強化の一環として、日常の実務に関連した項目について、eラーニングなどの方法で具体的な事例を挙げた研修を実施し、倫理意識や危機対応能力の向上を図っています。

- 研修内容例**
- ・コンプライアンス
 - ・リーガル
 - ・リスクマネジメント
 - ・行動規範 - お客様や社会に信頼されるために -
 - ・反社会的勢力排除の基礎知識
 - ・パワーハラスメント
 - ・インサイダー取引防止

社内ホットライン制度の運用



当社は、公益通報者保護制度に準拠して内部通報制度「社内ホットライン」を設置しています。アデランスグループ行動規範や社内規程・ルールへの違反、不正・違法行為、又はその兆候を速やかに把握して自律的に改善を行うために、上司を通じた業務報告ルートとは別に、内部通報のルートも設けたものです。社内の内部通報窓口とともに社外窓口(外部機関)で通報を受け付け、プライバシー・個人情報保護、通報による不利益な取扱いの禁止、調査結果などのフィードバックに関するルールを定め、厳格に運用しています。

違反等が生じた場合は適切な是正措置等を行い、その対応状況や結果はコンプライアンス・ガバナンス委員会で定期的に報告しています。

クレド：社員自らが考えまとめた「おもてなしの心」の規範



お客様の満足と信頼を高めるために、当社が一丸となって取り組んでいる活動の一つに「クレド(CREDO)」があります。2009年、当社の社員自らが日本全国から集まり、お客様の満足とは何かを考え、全社員が共通の認識を持ち行動できるようにと、クレドをまとめ制定しました。さらに、日本で始まったクレドは、世界各地のアデランスグループにも広がり、創業精神である「お客様を想う心」は、世界中のお客様と社員の笑顔をつなぐ架け橋となっています。



国内事業

日本国内では、男性向け「ADERANS」、女性向け「レディスアデランス」「FONTAINE」のブランドを核に、時代とともに変わるお客様のニーズに対応しています。

新型コロナを機に立ち上げた新業態「眉毛専門店」

創立以来、髪のお悩みをお持ちのお客様をサポートし、その経験やノウハウを毛髪だけでなく美容領域でも活かすため、トータルビューティをサポートするサービスを強化しています。新型コロナウイルスの流行下によるマスクの習慣化により、人々の視線はこれまで以上に目元に集まるようになりました。特に眉は第一印象を決めるパーツでありながら、ご自身で整えるのが難しいと言われていました。そのニーズをいち早く捉え、眉毛専門店を2020年11月にオープンしました。今後も世の中のニーズに着目し、事業を推進してまいります。



株式会社アデランス
新事業店舗推進部
部長
岸 富士雄

アデランス事業

トータルヘアソリューションブランド アデランス

アデランスのサービスは、まず初めにお客様の髪や頭皮に関するご相談を丁寧に伺うところから始まります。お客様のお悩みやご希望のヘアスタイルに応じて、お客様の髪の色や頭の形に合わせてつくる「オーダーメイド・ウィッグ」、自髪を活かして部分的に増やす「増毛商品」、頭皮環境を整える「育毛サービス」や最新の増毛技術「ヘアシステム」まで、お客様の魅力を最大限に引き出す商品・サービスをご提供します。また、定期点検やウィッグメンテナンス、ヘアカット、ヘアケアなど、アフターサービスも充実しています。

(2021年8月末現在、全国165店舗展開)

ADERANS

「髪を増やす」「髪を育てる」という2つのアプローチ



新增毛サービスの「ヘアパーフェクト」、自髪を活かして人工毛髪を結びつける増毛商品「ピンポイント」や「バイタルEX」、育毛商品「ヘアリプロ」まで幅広いラインナップ。米国ヘアクラブ社のシステムをアレンジした会員制月額プラン「フリーダム」も発売。男性のあらゆる髪のお悩みにお応えべく進化し続けています。

レディスアデランス

オーダーメイド・ウィッグからビューティヘア & スカルプケアまで

女性向けオーダーメイド・ウィッグブランドとして長くご愛顧いただいている「イヴシリーズ」は、グループで培った技術やノウハウをもとに、女性の髪のお悩みを解決し、おしゃれを楽しんでいただく商品をご提供しています。また、「大人のエクステ」として「ヘアアップα」や頭皮をケアしながら美しい髪を育む「ベネファージュ」シリーズも展開しています。



フォンテーヌ事業

手軽に楽しめるレディメイド・ウィッグをバリエーション豊かにご用意

全国223の百貨店、直営店、大手流通チェーンで、レディメイド・ウィッグ(既製品)を提供しています。(2021年8月末現在)百貨店内の店舗、直営店「フォンテーヌ」では、人毛と人工毛髪をミックスして、ハンドメイドで仕上げた「ヴァラン」、個性豊かな色使いのスタイリッシュヘア「ロロック」、気軽にボリューム感をプラスするトップピースなど、高品質でファッション性の高いレディメイド・ウィッグをご用意しています。

広がり続けるフォンテーヌブランド

より多くの女性にウィッグを楽しんでいただきたい。そんな想いからあらゆるファッションシーンで楽しんでいただくためのブランドを、多様な流通経路を通じて発信しています。主力ブランドであるフォンテーヌは、全国の百貨店と直営店で展開。また、近年はより身近に気軽にウィッグを楽しんでいただける「スワニー by フォンテーヌ」と欧米を中心に海外の女性に愛されてきた「ルネ・オブ・パリ」の「インポートブランド」をはじめ、アクティブにオシャレを楽しめるウィッグショップを大型スーパーやショッピングモールを中心に展開。さらに、エンターテインメント性を重視したパリ発祥のウィッグブランド「アニーダブレイ」も加わり、ウィッグの楽しみ方を提案しています。



その他国内事業

医療事業

病院内にヘアサロンを34店舗(2021年8月末現在)開設。患者さまの身体的負担を考慮した移動式理美容椅子を導入し、頭皮にやさしいヘアケア商品を使用した一般理美容サービス(シャンプー、ヘアカット)に加えて、医療用ウィッグ「ラフラ」をはじめ、ファッションウィッグを提供しています。また、患者さまのQOL向上に貢献するため、ネイルやネイルオイルの提供、及びグンゼ社の低刺激インナー「メディキュア」のご紹介を行っています。



通信販売事業

主に2つの柱を基軸にビジネスを展開。①EC直販サイトやダイレクト通販を中心としたBtoCビジネス、②TVショッピングなど通販会社向けに卸事業を中心としたBtoBビジネス。男性、女性向けヘアケア商品から美容機器、ウィッグまで幅広い商品ラインナップも特徴の1つです。



美材ルート事業

全国の理美容室に美容材料商などを通じ、当社のウィッグをお届けしています。美容師を対象とした講習会を通じた販促活動のほか、化粧品店に向けて卸売を行い、一般のお客様へ当社のレディメイド・ウィッグを販売しています。新たに事業者に向けて光触媒コーティングによる衛生サービスも提供しています。



新業態事業

先端美容をテーマにした「ビューステージ」ブランドでは、トータルビューティをサポートする商品・サービスを強化しています。2020年11月より眉毛のスタイリングを提供する「ビューステージ アイブロウサロン」をアデランスサロン内に併設して展開しています。(2021年8月末時点28店舗)



国内グループ会社

アデランスメディカルリサーチ社

2017年に設立し、グループ入り。医療機関向けの機器や医薬品、サプリメントや機能性表示食品などの販売及び、クリニック運営支援並びにコンサルティング事業を行っています。

ライツフォル社

2003年に設立し、2016年にグループ入り。専属工場を持ち、主に女性用ウィッグ、医療用ウィッグの製造販売・修理並びにヘアサロン(美容ルート)へのご提案を行っています。自社運営のネットショップおよびモール型店舗では、ウィッグのほか厳選した美容・健康商品を多数取り扱っています。



パルメッセ社 Palmesse

主に保険事業、美容・健康事業、衛生事業、不動産事業を展開しており、衛生事業では、光触媒技術を用いた抗菌・消臭などを目的とした商品・サービスを手掛けております。光触媒ブランドとして「Hikarium(ヒカリウム)」を展開し、衛生事業の強化・推進及び、光触媒の認知拡大、産業の発展に貢献していきます。

ハイネット社

1960年に創業し創業60周年を迎えたウィッグ老舗企業、2016年にグループ入り。百貨店を中心に展開するレディメイド・ウィッグ『ハイネット』から10~20代向けファッション・ウィッグの『NAVANA WIG』など、三世代戦略を見据えた展開を行っています。ウィッグ業界では世界に先駆けて『オンライン接客』を導入するなど未来に向けた取り組みを行なっています。



アデランスバイオ社

2021年3月に設立し、佐賀県に本社兼工場を構え、光触媒をはじめとする衛生商品の開発製造から販売までを一貫して手掛けています。また、バイオサイエンスによる環境問題への取り組みなど、アデランスグループ全体における衛生・環境分野の強化・推進を図ってまいります。



海外事業

各国のグループ会社においても、国内の取り組みと連動して「自社の強みを社会で活かす」を基本精神に、お客様の毛髪に関するニーズに対応しています。

BOSLEY

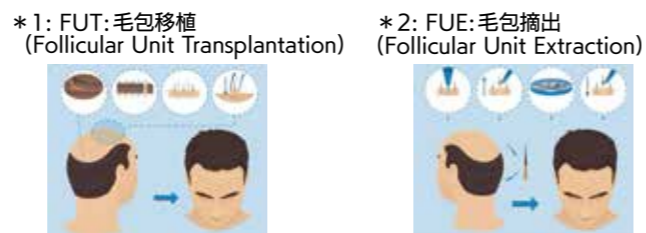
北米での海外ビジネス

ボズレー社



ボズレーは北米市場における毛髪移植（ヘアトランスプラント）のリーディングカンパニーです。

ボズレー社は、北米市場でトップシェアを有する、毛髪移植における世界的な第一人者です。ボズレー社の毛髪移植は専門性の高い医師と医療スタッフによって行われ、後頭部または側頭部の頭皮から健康な毛包（毛根を含む組織）を切除し、薄毛部分に移植します。施術方法は従来からあるFUT¹の他、メスを使わない施術方法FUE²が加わり、より患者様のニーズに合わせた施術を提供しています。2021年8月末現在、26のクリニックと43の相談室を展開しています。



アデランス・ヘア・グッズ社

アデランス・ヘア・グッズ社は、男性・女性向けのオーダーメイド・ウィッグ、レディメイド・ウィッグなどの卸売を展開しています。1987年にIHI社がアデランスグループの一員となり、サイバーヘア商品を米国にて販売するとともに、1989年のルネ・オブ・パリ社をグループ化後、女性向けファッション・医療用ウィッグ市場への拡大を図ってきました。現在では、米国でも有数の大手ウィッグメーカーとしてお客様に高品質のウィッグを提供しています。今後はさらなる成長に向け、既存ブランドの強化や新規商品の開発、販路の開拓を行ってまいります。

アジアでの海外ビジネス

アデランス・シンガポール社



2002年9月、現地法人を設立。同年10月にレディメイド・ウィッグを扱うフォーチュンウィッグス、2004年にサロンをグループ化。モールで展開するレディメイド・ウィッグ販売に加え、サロンではオーダーメイド・ウィッグ、増毛、育毛までトータルに提案しています。

アデランス韓国社

2019年11月、現地法人を設立。約1年の準備期間を経て2021年1月よりレディメイド・ウィッグ、ヘアケア商材、美容機器等の卸売り事業を展開しています。

アデランス台湾社



1990年1月、現地法人を設立。ヘアサロン機能を完備したオーダーメイド・ウィッグ、増毛や育毛サービスがメインのサロンを運営のほか、レディメイド・ウィッグをメインとした路面店、百貨店での運営も行っています。

アデランス・トータルヘアビューティソリューション(タイ)社

2018年9月、バンコクに現地法人を設立。同年11月に、サイアム高島屋内に「アデランス サイアム高島屋」をオープンしました。レディメイド・ウィッグ、オーダーメイド・ウィッグ、増毛商品を提供しています。

アデランス香港社



2017年4月、現地法人を設立。同年9月に香港有数の商業地に「アデランス Causeway Bay 店」、2020年に「アデランス Tsim Sha Tsui 店」をオープンしました。サロン機能を併設しており、ウィッグのみならず、増毛から育毛サービス、美容機器まで提供しています。

アデランス上海社

2005年12月、現地法人を上海に設立。日本同様にオーダーメイド・ウィッグ、レディメイド・ウィッグを扱い、特に百貨店やモールでのレディメイド・ウィッグの販売に力を入れています。

お客様に喜ばれる 革新的なサービスに挑戦

ボズレーRxは、医師による対面診察を受けなくても、ヘアロス治療のための処方薬を入手できる便利な方法としてお客様に喜ばれています。ボズレーでは、これまでもあらゆる段階のヘアロスへのサポートを提供してきました。今回のボズレーRxの導入では、特に初期段階のヘアロスに悩む方への予防的な対策が、より身近になりました。将来的にこのプラットフォームを活用し、ボズレーの既存サービスや商品の販売・最新毛髪回復技術のご紹介の他、美容や健康に関するサービス提供ができる様、更なる革新へ挑戦し続けます。



ボズレー社
社長兼CEO
ロブ・スプーレル

ヘアクラブ社



北米市場において毛髪に悩む男性・女性向けに総合毛髪関連事業を展開するリーディングカンパニーです。

HAIRCLUB®

ヘアクラブ社は、北米市場におけるリーディングカンパニーとして、毛髪に悩む皆様に毛髪関連商品をご提供しています。細やかな気配りと高い実績、他社の追随を許さないサービス、さらにはグループ会社であるボズレー社と協働し(植毛顧客のボズレー社への紹介)、ヘアシステムや増毛商品などを中心とした幅広い商品を取り揃え、髪のお悩みやご予算、増毛方法など、お客様一人ひとりのご要望にお応えしています。2021年8月末現在、米国、カナダなどに124店舗を展開しています。

40年にわたり、毛髪に悩むお客様をサポートしてまいりました。経験豊富で優れたカウンセラー、美容師、施術スタッフが一丸となり、これからも信頼と実績を築いてまいります。

アメコア・インダストリー社 エステティカ・デザイン社

女性向けのレディメイド・ウィッグの卸売を行っています。特に、アメコア・インダストリー社はアフリカ系アメリカン市場に強みを持っており、さらなるシナジーを推進していきます。



欧州での海外ビジネス

アデランス・スウェーデン社



スウェーデンでのウィッグの代名詞となった企業。国内のみならず、フィンランドやノルウェー、デンマーク等に輸出しています。病院内ヘアサロンを含む店舗の運営も行っています。

アデランス・フランス社

1992年にヨーロッパで最初にグループ入りし、アデランスのヨーロッパ創業の地。ウィッグやヘアピース、毛髪関連商品を直営店での小売販売と国内の卸売りをしています。

アデランス・ベルネクス社



オランダ、ベルギー国内の卸売および直営店での小売販売の他、オランダでは病院内ヘアサロンも展開。女性用ウィッグの分野では、オランダ、ベルギーにおけるファッションリーダー企業です。

アデランス・ドイツ社

ウィッグやヘアピースなどをドイツ国内百貨店・直営店で小売販売。ドイツ国内および東欧諸国での卸売りをしています。

アデランス・ユーケー社



ファッションウィッグやヘアエクステンション、その他毛髪関連商品の卸売・小売販売を行っている、英国におけるウィッグ販売の第一人者です。

アデランス・トータルヘアソリューション・イベリア社

ファッションウィッグやつけ毛、その他毛髪関連商品をスペイン、ポルトガルに卸売しています。その他、小売店2店舗の運営も行っています。

グループ生産拠点

アデランスグループは、生産販売一貫体制のもと、タイ、フィリピン、ラオスなどにある自社工場及び提携工場において、熟練した技術者が繊細で高品質なウィッグの生産を担っています。

当社は、1986年のアデランス・タイ社設立を皮切りに、1992年にワールド・クオリティ社(タイ)、2002年にアデランス・フィリピン社を設立し、東南アジアでの生産を拡大してきました。

2012年9月よりラオスでの生産を開始し、2013年10月にはフィリピン第2工場を稼働しました。タイ、フィリピン、ラオスを三拠点として、お客様に高品質のウィッグをお届けしています。

現地従業員数 (2021年8月末現在)

アデランス・タイ社	369名
ワールド・クオリティ社	201名
アデランス・フィリピン社	728名
派遣社員	358名
ラオ・クオリティ社	767名

*派遣社員：派遣会社と提携して工場内で就業している社員

アデランス・タイ社

1986年、ナワナコンに設立し、1988年にプリラム工場が稼働し、レディメイド・ウィッグの一貫生産、オーダーメイド・ウィッグの毛植え・ベース裏コーティング・検品、商品の修理業務も行っています。1999年にISO9001、ISO14001認証を取得しました。2009年に学校内への植樹活動、2012年に病院へのウィッグ寄贈を開始しました。



品質および環境マネジメントシステムの国際規格であるISO認証を取得

ワールド・クオリティ社

1992年にタイのアユタヤに設立し、2001年から人工毛髪「サイバーヘア」(2012年APIへ移管)、2006年から人工毛髪「バイタルヘア」の生産を開始しました。2011年のタイ・アユタヤの洪水の被害を受け、2012年にサラブリー工場を建設し、移転しました。タイ、ラオスにおけるオーダーメイド・ウィッグの製造・物流窓口を担当しており、2015年にはISO9001認証を取得しました。

2017年には病院へのウィッグ寄贈を開始しました。

アデランス・フィリピン社

2002年フィリピンのクラークに設立し、男女オーダーメイド・ウィッグの製造および輸出を行っています。2012年から人工毛髪「サイバーヘア」の生産を行っており、2013年にオーダーメイド・ウィッグの毛植え工程専門工場として、第2工場が稼働を開始しました。2015年には教育部を設立し、新人教育や外注先の教育活動を行っています。

ラオ・クオリティ社

2012年に、新たな生産拠点として、ラオスのヴィエンチャン工場にて、オーダーメイド・ウィッグの毛植え工程の委託生産を開始しました。2017年に同工場を運営するラオ・クオリティ社をグループ化し、ワールド・クオリティ社から届く商品の毛植えをメインに行っています。また、職業訓練校と連携して、植毛科を開設し、雇用の創出を図っています。

生産拠点での新型コロナウイルス関連のサポート

タイ) 義援金の寄付及び療養施設の提供支援



ワールド・クオリティ社では、現地で隔離施設が不足していることから、その対策としてサラブリー県知事より、WHA SIL工業団地内に隔離施設の設営指示があり、設営のため同社より義援金の寄付を行いました。また、集まった義援金により完成した隔離施設内で使用する、日用品などの設置作業に同社のスタッフも協力いたしました。

※Warehouse Asia Saraburi Industrial Land

タイ) 備品等必要物資の寄贈



【寄贈内容】
個人用防護服(100着)
全身タイプのガウン(100着)
N95 マスク(240枚)、
ゴム手袋(750組)
飲料水(240本)
使用済みドラム缶(3缶)

アデランス・タイ社では、新型コロナウイルス感染症への対策支援として、2021年9月にノンプローン寺院に必要物資を寄贈いたしました。

また、同社では2020年にも工場近くにある県立プリラム病院に、日々新型コロナウイルスと闘う医療従事者の方々へ応援と感謝の気持ちを込めて手作りフェイスシールド300点と社員からの義援金10,000パーツを寄贈しています。

ラオス) 支援物資の提供



アデランス・ラオス社では、新型コロナウイルス感染症への対策支援として、サワンナケート県カイソンポムウィハーン郡に支援物資を2021年8月に寄贈いたしました。

【支援物資】
インスタントコーヒースティック(2,160本)
インスタントラーメン(1,620食)
ミネラルウォーター(600本)

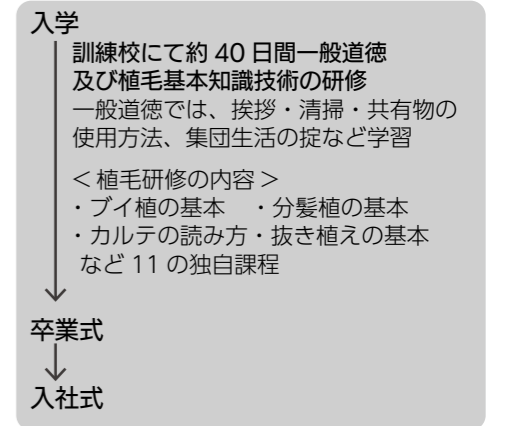
ラオス職業訓練校でかつら植毛技術養成科を導入



ラオ・クオリティ社では、2018年より、安定的かつ優秀な人財獲得のためラオス国・政府と連携した職業訓練校で「かつら植毛技術養成科」を導入しています。

ラオスの労働者は、働き口を求めて隣国タイへ出稼ぎに行き、稼いだお金を実家に仕送りすることが一般的で、大きな社会課題となっています。

この「かつら植毛技術養成科」を受講することで、無理して親元を離れて不慣れな外国に出稼ぎに行く必要がなくなり、卒業生の100%がラオ・クオリティ社に入社されています。



ラオス国での雇用創出の貢献に感謝

職業訓練学校は、ラオ・クオリティ社と提携できたことを嬉しく思います。また、新たに植毛学科を加えることができたことは、当校にとっては大変名誉なことです。植毛科ができたことでラオス労働者の職業の幅が広がり、職につき収入を得る道を開拓していく歩みに大きく貢献していただきました。将来的には、双方が緊密に協力し合い、幅広く意見交換し、更に各方面に植毛科を宣伝することで、植毛科入学者のスキルアップを計画的に実行し、当科を通して労働者の質の向上に引き続き取り組んでいきたいと思っております。



ラオス労働社会福祉省
博士
シティソム・ブンマー 様

職業訓練・雇用創出を通じた地域貢献

優秀な人材の安定確保の為、ラオス政府と連携し2018年より職業訓練校に「かつら植毛技術養成科」を導入致しました。ラオスは親元を離れ、慣れない隣国に出稼ぎに行く方が多く、当科卒業生は100%当社工場に採用されるため、ラオス国内の雇用創出に貢献していると実感しています。当社としても、就職意欲の強い方を採用し、入社後研修時間が短縮されることから、雇用主・訓練校卒業生に多くのメリットがあります。

今後もラオス国に貢献できるよう努めてまいります。



ラオ・クオリティ社
工場長補佐
長谷川 盾

ずっと笑顔でいられるために

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



アデランスグループは、グローバルに事業を展開する企業として、2030年までの実現を目標とする世界共通の目標「持続可能な開発目標 (SDGs)」で掲げられる、世界が直面するさまざまな課題と真摯に向き合い、事業を通じた社会課題の解決を図ることで、持続可能な社会の実現に寄与し、持続的な成長を目指していきます。

SDGs視点に基づいた活動体系へ

アデランスグループが、今まで取り組んできた価値共創型CSR活動を、SDGs視点に基づいた分類に移行し、関連性の高い目標策定を進めています。

今後は、当社の事業成長と同時に、SDGsが目指す持続可能な社会が実現するような、社会課題の解決に寄与する事業の推進に努めていきます。



SDGs活動の4つの分野

ずっと笑顔でいられるために

健康の笑顔

- ・毛髪を通じた健康課題の解決
- ・毛髪周辺領域での潜在課題の解決



社会の笑顔

- ・地域社会・コミュニティとの連携
- ・社会を配慮したユニバーサルデザイン
- ・働きがい・人財育成・ダイバーシティ&インクルージョン



地球の笑顔

- ・環境汚染予防
- ・環境負荷の低減
- ・資源循環型社会の実現



未来の笑顔

- ・文化の発展
- ・子どもたちへのサポート
- ・持続可能な社会に向けた取り組み



各分野のSDGsテーマは主に関連するものを記載しています。また、活動内容によっては複数の分野に及ぶものもあります。

光触媒技術を活用したSDGs視点の新事業

アデランスグループは、長年の毛髪研究から生まれた健康に関する技術を活かし、毛髪だけでなく、美容や健康領域にも積極的に取り組んでいます。

昨今の衛生管理に対する意識の高まりを受け、社会の衛生環境に寄与するという理念のもと、光触媒を中心とした衛生事業を開始しました。

日本発の光触媒技術の世界へ

光触媒は1967年に日本で発見された技術で、非枯渇性エネルギーとして、衛生や環境分野での活用が期待されています。当社は、その光触媒反応の発見者であり、世界的な化学者である藤嶋 昭氏（東京理科大学名誉教授）と顧問契約を締結しています。

光触媒コーティングの作用



光触媒は「それ自体は変化しないが、光を受けることで反応を促進するもの」と定義づけられます。酸化チタンを主原料とする光触媒溶剤は、太陽光や蛍光灯などから出る光線を当てることによって、その表面で化学反応を起こし、有機物などを分解する特徴があるとされています。

※すべての菌・ウイルスに効果があるわけではありません。

光触媒を中心とした衛生事業は、安心・安全に暮らせる地球の未来に向けた、SDGs活動の一環としても重要な意味をもっています。また、当社光触媒のブランドや商品を通じて、日本発の光触媒技術の世界に広がっていきます。

アデランスバイオ社の設立

2021年3月16日に、アデランスグループ67社目となる株式会社アデランスバイオを佐賀県佐賀市に設立しました。地球環境に貢献すべく、光触媒技術を中心としたカーボンニュートラルに寄与する技術及び抗菌・抗ウイルスに関する技術研究、商品開発・製造等の環境衛生事業を手掛けてまいります。



「EcoTiO₂」ブランド

アデランスバイオ社では、「EcoTiO₂」のブランド名で、光触媒の溶剤やオリジナル商品を販売しています。自然環境・生態学を意味する「Ecology」と酸化チタンの元素記号である「TiO₂」から成る造語で、酸化チタン光触媒を用いて環境分野への貢献を目指しています。

EcoTiO₂
Protect the global environment

安心・安全に暮らせる未来のために、社会的意義のある事業活動を展開へ

新型コロナウイルスによって、これまで当たり前だった日常に不安や制限を強いられ、人々の生活や価値観も変化すると共に、日々の衛生対策の重要性を再認識させられました。

これを機に、アデランスグループでは、環境や衛生分野に関する研究開発をはじめ、国内外に向けた商品企画、製造販売の更なる強化を目的にアデランスバイオ社を設立しました。

研究開発は「衛生分野」と「環境分野」に大別し、優先して衛生分野の研究開発に着手しております。製造や商品開発は、アデランスグループのサプライチェーンにおけるネットワークを最大限活用し、大手の化学メーカーや工業製品メーカーなど、種々のパートナー企業と手を組み、最終製品の開発や商品化に向けた計画・実行を進めております。

研究開発から製造・販売までを一貫して手掛けることで、お客様やお取引先様から頂く意見・要望等の声を活かし、大学やパートナー企業との共同研究をはじめ、第三者機関でのエビデンス取得、並びに関連団体での各種認証の取得を目指し、更なる品質向上や商品の改善に努めてまいります。



アデランスバイオ社
代表取締役社長
千藤 伸一

がん患者さまなどへの支援

がんと共に生きる社会において一人ひとりがいきいきと過ごせるように

がんは、日本において日本人の死因の第1位で、生涯のうちにがんにかかる可能性は、男性の2人に1人、女性の3人に1人と推測されています。また、がんからの生存率は改善が続けられており、早期発見、治療環境、患者さまやご家族の悩みのケアなどの取り組みが重要となっています。(出処:厚生労働省「がん対策政策レポート」など)

アデランスグループでは、このような、がんと共に生きる社会において、一人ひとりが、いきいきと笑顔で過ごすことのできる社会の実現に向けて、国内外でさまざまな活動を進めています。

ピンクリボン運動への協賛



当社は、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるピンクリボン運動を応援しています。ピンクリボンバッジを配布するとともに、「ピンクリボンマーク」スタンドを全営業店の受付に設置し、社員への意識づけを心がけています。2019年は、東京で開催されたピンクリボンスマイルウォークに9回目となる参加を行いました。

ボズレー社)米国乳がん研究協会への寄付



ボズレー社は、2014年から年に1回米国乳がん研究協会へ一定金額の寄付を実施しています。ピンクリボン月間である10月の売上に応じた金額を寄付する方式で、期間中、社内はピンクリボンを象徴するピンク色に彩られたり、パソコン上に現状の寄付金額を表示したりと社員のモチベーションを高める工夫を施しています。現時点で19万ドル以上を米国乳がん研究協会へ寄付しています。

がんサバイバーのための「ヘルスケアアカデミー」のサポート



当社は、一般社団法人キャンサーフィットネスが主催されている「ヘルスケアアカデミー」のサポートをしています。キャンサーフィットネスは、「がんになったら運動しよう!」を合言葉に、体力作り支援・がん治療後の自己管理の支援と

いった活動をされている団体で、がん患者様を対象にした様々な種類の「運動教室」と、治療後の人生のQOLを向上するために自分の健康管理の方法を学ぶ「ヘルスケアアカデミー」を開催されています。

第5回ホワイト企業アワード「健康経営」部門で受賞

当社は、「がん罹患者就業支援に関する規程」の制定など、「がん」に対する取り組みが評価され、ホワイト企業認定制度を展開する一般財団法人日本次世代企業普及機構(代表理事:五味田 匡功、通称:ホワイト財団)が主催する『第5回ホワイト企業アワード』の「健康経営」部門を2020年3月に受賞しました。

主に関連するSDGs



基本的な考え方

アデランスグループは、トータルヘアソリューション企業のリーディングカンパニーとして、世界各国で毛髪に悩む人々へ笑顔を届けるため、自社研究開発はじめ、大学との産学連携やパートナー企業との共同研究開発を積極的に推進し、画期的な人工毛髪や医療用ウィッグの研究、育毛・ヘアスカルプケア関連研究、抗がん剤脱毛抑制研究など、毛髪を通じた健康課題の解決を推進しています。

病院内ヘアサロンの展開



当社は髪を通じて心の健康をサポートする医療事業活動に積極的に取り組み、その一環として病院内理美容室(ヘアサロン)を、2002年に開設し、現在では全国で34店舗となりました。

病院内ヘアサロンでは、一般的な理美容サービスのほかに、医療用ウィッグ及び他社商品のアフターケア、抗がん剤治療に伴う副作用の脱毛時のご相談や外見支援のご相談により、患者様のQOL(Quality of Life)の向上に向けたサービスを提供しています。

日本で評価の高い病院内ヘアサロンを、2011年からドイツ、オランダ、スウェーデンにも導入し始めています。(スウェーデンやオランダなどに2021年8月末現在8店舗)。

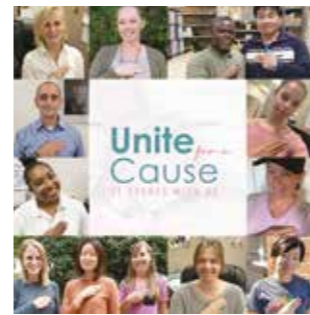
医療接遇講習

病院を訪問させていただきスタッフ、患者様をお手伝いさせていただきスタッフには、医療知識などの講習を義務付けています。

外部専門講師による医療接遇講習は、VOL-NEXT社(がん患者サービス事業会社)により実施され、2005年以降の累計1,419名の社員が受講しています。(2021年8月末現在)



エステティカ社)Keep A Breastへのサポート



2019年より小売店などと協力し、ピンクリボン月間の10月に毎年5000ドルをKeep A Breastに寄付を行っています。Keep A Breastは、カリフォルニア州に本部を置く、非営利団体で、教育や予防、行動を通じて乳がんのリスクとその影響を世界的に減らすことを使命としています。

医療用ウィッグのJIS規格化

日本毛髪工業協同組合が申請したJIS原案が経済産業省の審議を経て、2015年4月20日、ウィッグとしては世界初の国家規格として制定されました。JIS規格化にあたって、アデランスグループは、業界のリーダーとして中心的な役割を担ってきました。

アデランスグループでは医療用ウィッグのJIS規格が制定されたことを受け、医療用ウィッグ全20商品の自己適合宣言を行い、日本毛髪工業協同組合が認証する「Med・ウィッグマーク」の使用が許諾されました。今回のJIS規格化により、医療用ウィッグの品質に関する基準が明確となり、お客様に安心してご購入いただけるようになりました。



保険会社との連携

保険会社各社と連携し、外見ケアという側面でも、がん罹患者さまへの幅広いサポート体制の構築に協力しています。AIG損害保険とは医療用ウィッグの購入費用を補償する保険で提携し、ライフネット生命・オリックス生命とは当社の医療用ウィッグなどを優待価格での提供で提携しています。

乳がんの教育・啓発・予防に協力

2019年よりKeep A Breast (KAB) と提携して、乳がんの教育・啓発・予防のための資金調達を行ってきました。KABは、治療法の発見というメッセージではなく、予防と早期発見というメッセージに重点を置いています。さらに、これまで十分なサービスを受けてこなかったコミュニティに対して情報を提供し、その情報にアクセスできるように努めています。KABの広範囲にわたる包括的なビジョンは、私たちエステティカ・デザイン社すべての社員の心に響くものです。KAB、お客様、エンドユーザーの皆様と協力して、今後もKABのビジョンをサポートしていきます。

エステティカ・デザイン社
マーケティング・開発担当ディレクター
グレース・チャン

KABのシンボル
「I ♥ Boobies!」

健康の笑顔

活動テーマ

多くの人が健康であること

- 毛髪を通じた健康課題の解決
- 毛髪周辺領域での潜在課題の解決

健康課題の解決

(2021年8月現在)

・病院内サロン店舗数(国内): 34 店舗



大学との産学連携
産学連携により様々なテーマの研究を進め、毛髪分野に関する新たな知見を探っています。

大阪大学
脱毛・発毛のメカニズムの解明

太分大学
抗がん剤治療時の脱毛予防

東京工業大学
より美しく、より自然な人工毛髪の研究



「ピンクリボンのお宿ネットワーク」に協賛 1

オーダーメイド・ウィッグが「健康増進機器」として認定 2

使用者の精神的満足が得られることは健康増進の目的に資すると評価。

仕事とがん治療の両立支援
東京都主催「がん患者の治療と仕事の両立への優良な取組を行う企業」にて奨励賞を受賞。



病院での無料カウンセリング
店舗の美容師がボランティアで病院に在り、治療等で脱毛の患者様向けのセミナーや個別カウンセリングを実施。

がん患者さまと家族を支援する財団「Stichting Nu Jij」を設立 3

2019年NCC(ナショナルがんセンター)に医療用帽子50枚寄贈



ピンクヘア キャンペーン 4
ピンク色のエクステンションを販売し、乳がんの啓蒙と、同商品の収益を乳がん患者支援団体への寄付。

「Look Good Feel Better」をサポート
女性がん患者さまのヘアケア改善に、商品提供で協力。

働きがいのある環境へ

アデランスグループでは、商品を販売するだけでなく、アフターサービスに注力しており、社員の理美容技術を高めることが、お客様にウィッグを笑顔で使っていただくだけでなく、社員の笑顔にもつながると考えています。

全国技術競技大会を開催 接客力や技術力を競う社内大会

1980年より、全国の当社店舗のスタッフが、それぞれの技量を競い合う、全国技術競技大会を開催しています。2020年では26回目の開催となり、全国のアデランス、レディスアデランスの店舗などで働く理美容師の資格を有する者(1,058名)のうち各予選大会を勝ち抜いた19名の中から、各部門の優勝者を決定しました。



従来、社内技術競技大会はアデランス・レディスアデランスを対象に開催していましたが、フォンテーヌにおいても、当社の強みである「接客力」「技術力」の更なる向上を目的に、お客様への接客力や、レディメイド・ウィッグ(既製品)のカット、スタイリングなどの技術力を競う大会「全国ロープレ・スタイリング大会」を2016年から開催を始めました。5回目の開催となる2020年では、百貨店・直営店・GMS店舗で働く正社員・契約社員(655名)のうち、「ロープレ部門」「スタイリング部門」それぞれの部門において、技術力の高い1名を決定しました。

2018年には、創立50周年を記念し、「第1回世界ウィッグ技術競技大会」を開催しました。世界中のアデランスグループが一丸となって、さらなる技術力向上に努めています。

最高の技術と知識

現在、社内には、独自の技術者認定試験制度や研修体制が整えられており、病院内ヘアサロンや直営店では理容師や美容師などの資格を有する、ウィッグスタイルに関する最高の技術と知識を持つスタッフが、お客様の毛髪に関する多様なニーズに応えています。

社員のスキル向上 (2021年8月現在)

(国内)			
理容師免許:	396名	毛髪診断士:	358名
美容師免許:	1,083名	認定講師:	7名
理容師免許・美容師免許:	38名	認定指導講師:	7名

様々なヘアスタイルに対応できる技術

世界技術競技大会に参加出来る知らせをいただいた時は本当に嬉しかったです。それは私の技術とキャリアを認めていただけたと感じたからです。私は勉強のためにヘアスタイルの雑誌を読んだり、お客様のリクエストを聞いているいろいろなヘアスタイルにチャレンジしたりしています。これからは自身のスキルを磨くだけでなく、後輩にも指導して技術を継承していきたいと思っています。



第1回世界ウィッグ技術競技大会
会長賞受賞
アデランス台湾社
林 玫好

「誰も置き去りにしない」社会へ

NPO法人JHD&Cへの協力



2015年3月よりNPO 法人 Japan Hair Donation & Charity (JHD&C=ジャーダック)の活動に協力しております。

JHD&Cは、ヘアドネーション(髪の毛の寄付)によって製作した人毛100%のオーダーメイド・ウィッグを、病気などでウィッグを必要とする子どもたちに無償提供しているNPO法人です。

当社では、2015年3月からJHD&Cへの協力を開始し、2016年4からはウィッグの製作協力を行っています。2018年9月には売り上げの一部がウィッグの製作に役立てられる「ヘアドネーション支援自動販売機」を本社

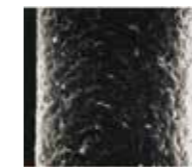
や一部店舗などに設置し、10月には当社病院内ヘアサロンなどを賛同美容室に登録する他、ウィッグの製作支援など、幅広くコラボレーションしております。

人工毛髪による人毛使用率の削減

これまでほとんどのオーダーメイド・ウィッグには人毛が使われていました。アデランスグループでは、安定調達の見地から、1983年より人工毛髪の研究を始め、人毛に劣らない人工毛髪の開発に成功しました。1991年には「サイバーヘア」、2006年には「バイタルヘア」の名前で商品化しております。無理な人毛調達を回避するためにも、新たな人工毛髪の開発に向けて日々研究を行っております。



サイバーヘア



バイタルヘア
ナチュラルヘア

アデランス台湾社) 障害者施設での無料ヘアカット



アデランス台湾社は、ボランティア団体からの呼びかけに賛同し、2012年から高雄市内で週に1回程度、障害者施設を訪問し、無料カットを行っています。2015年には、基隆市の美容室オーナーから要望があり、同市内でも始めました。この活動は社員の技術力アップにもなるため、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら活動してまいります。

アートを通じた障害者の皆様の支援

多様な個性に寛容なインクルーシブな社会の実現を目指し、障害者の皆様の経済的自立、社会参加を目的とした支援を行う障害者アート活動に賛同した取り組みを行なっています。

支援の取り組みの第一弾として、今回のCSRコミュニケーションレポートの表紙絵より、障害者アートの作品を活用させていただきました。これからも様々な活動を通じて、豊かな社会づくりに貢献していきたいと考えております。

協力先: 一般社団法人障がい者アート協会
公益財団法人日本チャリティ協会



本誌の表紙絵には、千葉 由佳里 様の「カラフルでゆかいな仲間たちシリーズ」を利用させていただきました。

社会の笑顔

活動テーマ

健全な社会であること

- 地域社会・コミュニティとの連携
- 社会を配慮したユニバーサルデザイン
- 働きがい・人財育成・ダイバーシティ&インクルージョン

働き方の多様性の推進

(国内の数値、2021年8月現在)

育児・介護休暇等:	40名
障害者雇用率:	2.31%

主に関連するSDGs



基本的な考え方

アデランスグループでは、約6,800名の社員が、20の国と地域で国内約500店舗、国外約300店舗を中心に、グローバルな活動を広げています。国籍やジェンダー等を問わず多様な価値観や考えを持った社員が、個性・能力を最大限に発揮することで、新たな価値を創造し続けることを目指します。また、各拠点を通じた地域社会との共生を進めています。



- JAPAN** 車いすサビ取りボランティア
お客様の笑顔のために「自分たちができることはないか」を探し、ボランティアで病院の車いすのサビ取りを実施。
- Thailand** 病院へのウィッグ寄贈
累計枚数2,294枚
1
タイ工場での試作ウィッグを現地の病院・国立がんセンター等へ寄贈。
- Philippines** 職場環境の充実度で表彰
3
フィリピンの労働省管轄のMDG ACHIEVEMENT FUNDより表彰。
- UK** My New Hair
4
世界的なヘア・スタイリストであるTREVOR SORBIE氏によって設立されたチャリティー活動をサポート。
- JAPAN** 「大阪府SDGs・健活10スペシャルマッチデー」に協賛
府民が生産にわたって主体的な健康づくりに取り組む「健活10」をキャッチコピーに活動を行っている大阪府の理念に賛同し、活動に協力。
- Thailand** 福祉支援自動販売機の設置
自動販売機の売上の一部を地元での貧困や障害問題の支援に活用。
- Philippines** 社員や家族の健康や安全へ「従業員と家族の福利厚生を考える会」など、社員主導による取り組みを実施
- UK** 「レディスナイト・チャリティファッションショー」を開催
脱毛で悩まれる方が多くいることを広く社会に伝え、脱毛についてのサポートを呼びかけることを目的に開催。
- JAPAN** 仕事とがん治療の両立支援
第5回ホワイト企業アワード「健康経営」部門で受賞。
- Thailand** ISO9001の取得
安定した商品品質を提供
- Philippines** Help Us Help Our Frontliners
新型コロナウイルス感染拡大に伴い、マスク2500枚を寄付
- USA** Pay It Forward
5
周りの人に感謝の気持ちを広げる、ヘアクラブ独自のボランティア活動。
- LAOS** 義援金と支援物資を提供
2
2018年7月に発生した水害被害に対し、支援物資と義援金を寄付。現地社員がボランティアにも参加。

環境マネジメントシステムによる環境配慮の徹底

アデランスグループは、ISO14001を基本とした環境マネジメントシステムを構築し、環境方針に基づいた環境活動を推進することで、地球の笑顔につながる循環型社会の構築に貢献してまいります。

アデランス・タイ社) ISO14001の取得



アデランスグループの主要生産拠点であるタイ工場において1999年、ISO14001(国際環境管理規格)を認証取得しました。ISO14001は地球環境保全活動の認証資格であり、環境保全の取り組みとして、以下の活動を継続して実施しております。

- 1.工場排水による水質汚染の防止
- 2.工場内における空気汚染の防止
- 3.産業廃棄物の安全処理
- 4.有資源の効果的使用
- 5.工場内の労働環境改善



アデランス・タイ社)ウィッグ製作時の廃材の活用

ウィッグ製作の過程で、短い毛材、ネットの切れ端やドラム缶など再利用できない資材が生じています。アデランス・タイ社は、そのような資源を廃棄するのではなく、有効活用できないかと考え、造花、サンダルなど多種多様な試作に取り組み、展示用やプレゼント用に役立てています。



生産現場での安全衛生・環境配慮の追求

工場での製作工程の多くは手作業であり、比較的危険の伴う工程は少ないものの、ISO認証を取得している以上、絶対に人体に影響があってはけません。当社の工場では、かねてよりとても厳しい水準で安全衛生に対する取り組みを管理してきました。

ウィッグを製作する際に発生する試作品や余った材料は、できる限りリサイクルし、より多く有効活用するためにテスト資材や部材などは新入社員の練習用として活用するなど、幅広い再利用を実施しています。今後も、社会・地域と結びつきを大切にしながら、さらに環境にやさしい生産体制を運用していきます。



アデランス・タイ社
社長
赤塚 均

主に関連するSDGs



基本的な考え方

アデランスグループは、「環境」を企業の社会的責任の一つと考え、商品の環境対応や事業所での環境負荷の低減など、経済と環境が両立する持続可能な社会を創造できるよう、環境に配慮した活動に取り組んでいます。

地球の笑顔

活動テーマ

地球が永遠に続くこと

- ・環境汚染予防
- ・環境負荷の低減
- ・資源循環型社会の実現

自然環境の保全・再生

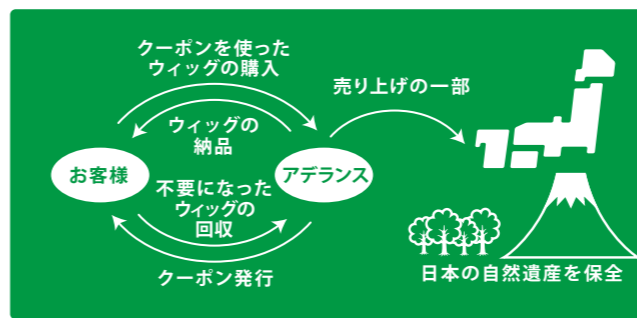
(2021年8月現在)

・フォンテーヌの森 環境保全面積： 25,089 m²

自然との共生

フォンテーヌの森キャンペーン

ウィッグの回収と環境保全を結ぶエコサイクル 2009年のキャンペーン開始から13年目



フォンテーヌ店舗で、お客様の使われなくなったウィッグ(他社商品を含む)を店頭にお持ちこみいただいた際に、クーポン券(緑のクーポン)を進呈します。このクーポン券を利用することで、新たなフォンテーヌウィッグを購入いただく際に割引価格が適用されることに加え、お買上商品1点につき100円分を環境保全活動に還元します。

当社の主力商品であるウィッグは、約80%以上がポリエステル由来の人工毛髪で作られているため、お客様がご使用されたあと、家庭ごみとして廃棄されると、CO₂の発生が危惧されます。そのようなウィッグを回収して、当社が適切な廃棄処理を行うことで、環境負荷への影響を低減することができるのではという思いから始まったのが「フォンテーヌの森キャンペーン」です。



2017年より東日本大震災の被災地区への桜並木植樹を支援しています。3年目となる2019年からは、南三陸町の津波到達地点に植樹を行う「海の見える命の森」プロジェクトに参加しています。

「緑の森キャンペーン」全国展開 第1弾
～NPO法人 さくら並木ネットワークとのコラボレーション～



2019年より「静岡県立森林公園」(浜松市浜北区尾野)でのアカマツ林再生活動への協力を民間企業として初めて開始し、2019年12月に社員らが初作業を行いました。

「緑の森キャンペーン」全国展開 第2弾
～民間企業として初サポート
「静岡県立森林公園」でのアカマツ林再生活動～

店舗での環境負荷の低減

節水用シャワーヘッドの導入



店舗に節水用シャワーヘッドを導入しています。このシャワーヘッドの導入により、水道水の節水や温水化するためのCO₂削減に効果を発揮しています。

導入状況(2021年8月末現在)
国内164店舗
1,359ブースに導入済み

3D型取りシステムを導入

2014年12月より、独自に開発した3D型取りシステムを店舗に導入しました。これにより、従来の頭髪測定で使用するフィッターを削減できるとともに、フィッター輸送が不要になるため、環境にやさしい対応ができるようになりました。

従来フィッター使用数
導入前：41,884個(2014年度)
導入後：15,025個(2020年度)

脱プラ推進企業として表彰

理美容業界の脱プラスチック化に向けた取組を推進する企業として、全国理容生活衛生同業組合連合会から感謝状をいただきました。



1 **オーガニック認証商品の発売**
JAPAN
オーガニック認証団体の世界基準ECOCERT(エコサート)の認証を取得した商品の発売。



2 **環境に配慮したウィッグの廃棄**
JAPAN
J&T環境 川崎エコクリーン工場と契約し、CO₂を削減した、環境に配慮した廃棄方法の実現。



3 **アデランス・タイ社の学校内植林**
Thailand
現地の学校の先生、生徒の皆さんと学校内植林を実施。

4 **Pay It Forward**
USA
周りの人に感謝の気持ちを広げる、ヘアクラブ独自のボランティア活動。

5 **LEDを活用した店舗へ**
JAPAN
照明のLED化など、消費電力の低減を図り、環境負荷が軽減した店舗作り。

6 **タイ工場での植林**
Thailand
ウィッグ製作時に生じる廃材をリサイクル業者へ売却し、その収益で工場内に植林。

環境保全面積(累計)	
2009年度:	406 m ²
2010年度:	1,813 m ²
2011年度:	2,063 m ²
2012年度:	2,531 m ²
2013年度:	3,469 m ²
2014年度:	5,013 m ²
2015年度:	6,825 m ²
2016年度:	7,875 m ²
2017年度:	12,459 m ²
2018年度:	22,776 m ²
2019年度:	24,083 m ²
2020年度:	25,089 m ²

環境保全面積は、植林の場合は植林本数に応じた面積、環境保全団体への支援の場合は当該団体の管理面積と当社からの支援比率をもとに、試算した累計値になります。

子どもたちへのサポート

アデランスグループは、さまざまな要因で困難な状況にある子どもたちの支援に、国内外で取り組んでいます。これらの取り組みを通じて、未来を担う子どもたちに、一人でも多くの笑顔が溢れることを願っています。

愛のチャリティ

1978年から続く アデランスのCSR活動の原点

当社は、1978年から「愛のチャリティ」を実施しています。これは「お子さまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病气やケガなどの理由でウィッグを必要とするお子さま（現在は4歳から15歳までが対象となります）が笑顔を取り戻していただけるよう、ウィッグをプレゼントするという活動です。

当初はクリスマスの時期に限定していた活動でしたが、2012年9月から通年のものとなりました。2014年3月からは、従来のオーダーメイド・ウィッグだけでなく、レディメイド・ウィッグ（既製品）も、プレゼント対象に加わりました。

年度	贈呈数
2013	172 枚
2014	265 枚
2015	343 枚
2016	336 枚
2017	315 枚
2018	330 枚
2019	308 枚
2020	325 枚



プレゼント先のご家族からいただいたお手紙

ヘアクラブ社(HairClub For Kids)



米国ヘアクラブ社は、「愛のチャリティ」と同様のサポート活動として、6歳から17歳の髪に悩む子どもたちにウィッグをプレゼントする「HairClub For Kids」を行っています。1995年からスタートし、20年以上継続して提供しています。

サンタスマイル活動



クリスマスの時期に、自宅に帰れないお子さまのために病院を訪問し、プレゼントをお渡しする「サンタスマイル活動」を30年以上継続しています。2019年には全国31カ所の病院で実施いたしました。

未来の笑顔

活動テーマ

明るい未来を広げること

- ・ 文化の発展
- ・ 持続可能な社会に向けた取り組み
- ・ 子どもたちへのサポート

子どもたちの笑顔

(2021年8月現在)

・ 愛のチャリティでの提供数(2020年)： 325 枚

主に関連するSDGs



基本的な考え方

近年、社会は大きく変化し、またその変化の速度も早まり、それに伴い社会的課題も複雑化しています。アデランスグループは、「笑顔」や「よろこび」があふれる未来の実現をめざし、当社の強みを活かせる領域での課題解決を通じて、未来につながる価値への取り組みを進めています。

文化の発展

撮影：重松美佐



スタジオ AD

ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団

～エンターテインメント業界を支えて38年～

当社は、ウィッグを多彩な文化活動に提供することで、ウィッグの持つ可能性を広げています。中でも文化芸能部門であるスタジオADは、日本を代表する舞台芸術・映像作品を手掛けています。

1983年にミュージカル『キャッツ』が劇団四季によって日本で初演されました。『キャッツ』の激しいダンスの動きに耐えるウィッグは、劇団四季のヘアメイク・衣裳デザイン担当者と当社スタッフが協力して開発したものです。その後、当社独自の芸能用ウィッグは、『オペラ座の怪人』、『クレイジー・フォー・ユー』といった日本を代表する舞台に採用され、その他多数の分野で芸能用ウィッグを、ご使用頂いております。

役者さんの負担にならないように工夫

劇団四季ミュージカル『キャッツ』は、私が入社当初から今日まで関わらせて頂いている作品です。24匹の猫達の模様はキャラクター様々ですが27色の毛材を色々ブレンドして作られています。ウィッグには、猫の耳が表現されているので演じる役者さんの耳は、ウィッグの中に隠れているのですが、音が聞き取れて、長時間でも耳に負担のかからないように素材に工夫がしてあります。日本での初演から40年近く経ちますが、役者さんが気持ちよく演じて頂けて、つけ心地の良いウィッグを日々研究し続けております。



株式会社アデランス
文化芸能部
川端 恵理子

次世代の社会に向けて、持続可能な技術・商品の実現に取り組んでいます。

持続可能な社会を目指し新毛髪素材の共同開発を開始 Spiber社が独自開発する構造タンパク質を活用



アデランスと構造タンパク質素材の産業化に取り組むSpiber株式会社(本社：山形県鶴岡市、取締役兼代表執行役：関山 和秀)は、Spiber社が独自開発する構造タンパク質を活用した新毛髪素材の共同研究開発に着手しました。

Spiber社では、地球規模の課題解決に貢献すべく、持続可能な次世代の基幹材料として注目される構造タンパク質の産業化に取り組んできました。

両社は、「構造タンパク質素材の活用」という点で気持ちを一つにただけでなく真の意味での人の幸せ、喜びに少しでも貢献したいと願う互いの姿に強く共感し、今回の共同研究開発に至りました。

人工毛髪の原料となる石油も限りある資源であり、今後100年を見据え、枯渇資源に依存しない新たな選択肢となる毛髪素材の創出を進めてまいります。

理美容業界の環境保全活動を促進 プラスチック代替や紙の代替となる、 石灰石を主原料とした「LIMEX」のTBM社との協働



アデランスと環境に配慮した新素材「LIMEX」を開発・製造・販売する株式会社TBM(本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO 山崎敦義)は、理美容業界を中心とした環境保全活動促進のために、持続可能な社会に向けた協働を始めています。



「LIMEX」を使用した、衛生的にマスクを保管・持ち運びすることが可能なマスクケースの販売。



1 輝く人への応援
自分らしく生き、今を輝く女性の皆様を、毛髪・ウィッグを通じてサポート。

- タンゴ歌手・冨木 奈奈 様
- 書道家・永田 紗戀 様
- チェリスト・料理家・ソムリエ 大前知諒 様
- 五輪金メダリスト ジョアンナ・ロウセル 様



2 世界子どもの日ユース・フェスティバルをサポート
障害者女性活躍推進センター代表兼自立生活センターポカラ事務局長にウィッグ提供。

3 経営学術団体への協力
当社の価値共創型CSRについて、書籍への事例掲載や、講演活動などを通じて、事例研究等に活用。



4 給食・教科書代を寄付
工場の近くにある幼稚園、小学校に、給食および教科書・参考書の費用の支援。

5 アロペシア患者さま団体を支援
17歳以下のお子様には無償でウィッグを提供などで支援。



6 「The Little Princess Trust」を支援
がんやその他の病気で髪を失ったお子さまに人毛のウィッグを提供。

7 Toys for Tots
クリスマスの時期、恵まれない子どもたちに、おもちゃをプレゼント。

アデランスの 10年間のCSR活動

2012年に当社として初めてのCSRコミュニケーションレポートを発行し、年に1回の発行を続け、本書は10冊目の発行となります。10年の間に、外部パートナー団体との協働を通じて、さまざまな価値共創型CSRを進めてきました。

注) 転載のコメント内容・所属・役職等は、現在注釈を除き、掲載当時のものです。

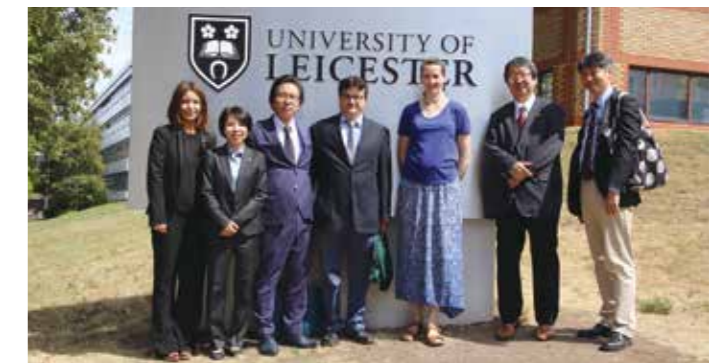
CSR 広報

高野山に供養塔を建立



2018年4月、創立50周年記念として世界遺産・高野山にアデランス供養塔を建立しました。これは当社に貢献した過去と未来の社員と取引先様、お客様への感謝の気持ちと、ご家族のさらなる繁栄を願った供養塔です。次の100年を目指していくにあたり、先輩方の努力やステークホルダーの皆様への感謝をこめ、更なる成長を祈願いたしました。

英国の名門レスター大学で 日本企業として初めて3年連続のCSR講義



2016年から3年間、英国のレスター大学より正式に招聘され、MBAの学生を対象にレスター大学にて当社の戦略的CSRに関する講義を行いました。2016年より2年連続で、日本企業としては初めてMBAの学生向け特別講座にて講義を行ったところ、大変好評であったことから、2018年もMBAの正規授業の中で講義を行うことになりました。本講演は、100名を超える学生、卒業生、ビジネスの専門家がマスタークラスの一環として世界中からレスターに集まっており、アデランスの講演は、参加者に大好評を博しました。講演後の壇上には、多くの質問やポジティブなコメントが殺到しました。マスタークラスの学生、卒業生、ビジネス専門家がレスターにもたらした熱意の高さを表すように、議論はかなりの長時間にわたりました。

朝日地球会議に特別協賛



朝日新聞社主催の「朝日地球会議」に、会議の趣旨に深く共感し、2018年より4年連続・4回目となる特別協賛をしました。「朝日地球会議」は、朝日新聞社が誰ひとり取り残さず、すべての人が暮らしやすい持続可能な地球と社会について、みなさまとともに考えていくシンポジウムです。

2021年10月18日(月)の講演では、上席執行役員の眞輪 睦夫が、「ずっと笑顔でいられるために」をSDGsビジョンに定め、従来のCSR活動をSDGs視点に基づいた分類「健康」「社会」「地球」「未来」の「4つの笑顔」へと移行したことや、「自社の強みを社会で活かす」ために「身近な取組み」を世界へ広げてきた中での「光触媒」との出会いや「地球規模の環境」との向き合い方をお話しました。

NPO法人さくら並木ネットワークとのコラボレーション 東日本大震災の被災地区への桜並木植樹

2011年3月11日に発生した大津波。津波はこれまで約100年に一度美しい東北を襲ってきました。世を超え代々語り継ぎ、一人でも多くの未来のいのちを守りたい。1年に1度必ず春に咲く桜に想いを託し、これまで全国各地の同じ想いの皆様と共に約6,000本(2021年現在)を植樹しました。植樹した桜を守り育てながら、伝承の桜を植えています。



NPO法人さくら並木ネットワーク
共同代表理事
細沼 忠良 様
小池 潔 様

〔CSRコミュニケーションレポート(2016)より転載〕

アデランス様には現地へ足をお運び頂き、被災地の新たなコミュニティの場所作りにご支援賜り心より感謝申し上げます。「海に見える命の森」へ植樹された桜が地域の人々の心を明るくし、環境活動の場、また震災の教訓を伝承する場となるよう努めてまいります。

南三陸ホテル観洋
女将
阿部 憲子 様

〔CSRコミュニケーションレポート(2019)より転載〕

スタジオAD独自のエンターテインメントウィッグ

舞台の感動的な世界観を創り出すために、私たちクリエイターは様々な要素を集約し、組み上げていきます。中でも俳優が直接身に付けるエンターテインメントウィッグは、極めて重要なものの一つです。その質の程度によっては、キャラクターの魅力、ひいては観客が作品から受ける感動そのものにも影響を及ぼしてしまうことでしょう。

こうした常に高水準のクオリティが求められる分野で、長年第一線を走り続けておられるのがスタジオAD様です。蓄積されたノウハウに基づく迅速かつ確かなお仕事に、厚い信頼を寄せております。今後とも“創作のパートナー”として、未永くお付き合いをさせていただければ幸いです。



劇団四季(四季株式会社)
舞台美術部 副部長
西山 るみ子 様 (2021年現在)

〔CSRコミュニケーションレポート(2017)より転載〕

グンゼとアデランスの連携で、より多くの人に笑顔を

グンゼは、患者様のQOLの向上に貢献できる製品「メディキュア」を、2016年より販売を開始しています。「肌にやさしい」素材の特長を生かして、入院中や手術後の悩みを、少しでも軽減できればとの思いから開発しました。

そして自社の通販を行う中で、実際に製品を手にとって触れてみたいとのご要望を、患者様や医療関係者からも多数いただきました。そうしたご要望をうけ、今回の提携となりました。病院内ヘアサロンの取り扱いにより、入院・通院中の方に、アピランスケアとセルフケアの両面から、QOL向上へのお手伝いができると考えています。今後も、両社が連携することで、より多くの方に、笑顔を届けられることを願っております。



グンゼ株式会社
QOL研究所 企画調査室 室長
上島 進 様

〔CSRコミュニケーションレポート(2018)より転載〕

NPO法人JHD&Cとのコラボレーション 取材をきっかけに活動範囲が拡大

私の高校時代の放送部での課題で、アデランス様を取材したことがきっかけとなり、JHD&Cさんとのヘッドネーションの活動が、ここまで広がるとは思っていませんでした。アデランスさんとJHD&Cさんの強い想いがあるからこそです。せっかく伸ばした髪の毛が、切った瞬間にゴミになってしまうことに違和感を覚えていました。実際ヘッドネーションをした時は、自分の髪が役に立つのだと感じ嬉しかったです。誰もが髪を切る時に、ヘッドネーションのことが頭によぎるような未来になればと思っています。



帯広三条高校 卒業
愛知県立大学 3年
荒 麻菜絵 様

〔CSRコミュニケーションレポート(2017)より転載〕

ウィッグ関連企業として世界第1位のアデランス様と、「髪に悩みを抱える子どもたち」に無償でオーダーメイド・ウィッグを提供しているJHD&Cが出会い、「アデランスによるOnewigの製作」というかたちで大きく結実しました。オーダーメイド・ウィッグ製作のノウハウと高いクオリティを、今後より多くの子どもたちに惜しみなく提供されることは、当団体としても大いに期待を寄せるところです。



NPO法人JHD&C
代表理事
渡辺 貴一 様 (2021年現在)

〔CSRコミュニケーションレポート(2016)より転載〕

民間企業として初サポート 「静岡県立森林公園」でのアカマツ林再生活動

このたび、アデランス様に静岡県立森林公園内の「アカマツ林の保全と再生」に、企業として初めて取り組んでいただけたこととなりました。森林公園のシンボルであるアカマツの森、この再生に御尽力いただけるということで、本当に心強く思っております。年間85万人が訪れる県立森林公園の魅力や価値が増すとともに、地域の美しい景観が再生され、県内外から更には多くの方々を訪れることを期待しております。



静岡県
くらし・環境部長
鈴木 亨 様 (写真左)

〔CSRコミュニケーションレポート(2019)より転載〕

がんサバイバーのための「ヘルスケアアカデミー」のサポート

アデランス様にご協賛を頂いているヘルスケアアカデミーでは、がん治療後がん患者が抱える問題に焦点を当て、改善に役立つ講義を毎月行っております。アデランス様に、髪やウィッグの悩みについての講義をして頂きました。脱毛を“隠すために使うウィッグ”ではなく、“美しく見せるためのウィッグ”に関心を寄せること自体が、心のセルフケアになり、生きる喜びや自信となっていくことを目の当たりにしました。参加された皆さんが、明るい笑顔で帰られる姿に、毎回、心から幸せな気持ちになります。いつも暖かく応援して頂き、心より感謝申し上げます。



一般社団法人キャンサーフィットネス
代表理事
広瀬 眞奈美 様

〔CSRコミュニケーションレポート(2018)より転載〕

東日本大震災で被災された、がん患者様に ウィッグの「お手入れ支援サービス」を提供

One Worldプロジェクトは東日本大震災で被災されたがん患者さんにケア用品を届けようと始まった活動で、全国から寄せられたウィッグなど支援品を東北各地の病院を通して患者さんにお渡ししてきました。

2012年7月からはアデランスさんのご協力で、ウィッグのお手入れなどのサービスを通常価格の半額で利用できる「お手入れ支援サービス」を開始しました。古くなって汚れたり傷んだりしたウィッグが、シャンプーやカットをしてもらうことで蘇ったと、利用された患者さんたちに喜んでいただいています。好評につき延長につぐ延長を重ねてきましたが、最終的に2021年までサービスを延長していただき、ありがたい限りです。



One Worldプロジェクト
事務局 代表
寺田 真由美 様

〔CSRコミュニケーションレポート(2019)より転載〕

毛髪と皮膚の正しい知識

アデランスの社員が当協会認定資格「毛髪診断士」に多数認定され、認定者はアデランス1社で診断士全体の1/8を超えています。また、公益目的事業の発展を願い、賛助会員企業の理事の一人にアデランス社より就任いただいています。今後も、既存の視点との相乗効果を生み協会発展に寄与する事を期待しています。

公益社団法人日本毛髪科学協会
理事長
木嶋 敬二 様

〔CSRコミュニケーションレポート(2014)より転載〕

廃棄物処理を通じて循環型社会形成をサポートしていきます

弊社は、JFEグループの技術力を結集した総合リサイクルカンパニーです。産業廃棄物の適確な処分はもとより、リサイクルの推進、エネルギーの創出にも注力することで信頼を得てまいりました。環境負荷低減、循環型社会形成に真摯に取り組まれているアデランス社様へは、回収されたウィッグ類の適正廃棄でサポートさせていただき、これからも安心と信頼をお届けしてまいります。



J&T環境株式会社
サーマル・ケミカル本部
川崎エコクリーン 工場長
柴田 淳司 様

人工毛髪でより自然な髪質を再現

人工毛髪の製造技術は匠の世界です。見た目も使い心地も、如何に人毛に似せたものを創るかという目標の下、日々研究開発が進められています。その背景には高分子科学、高分子成形加工学という技術的基盤があります。今求められているのは、個々の顧客の髪質に限りなく合わせた人工毛髪を製造できる、懐の深い技術です。まだまだやるべきことは沢山あります。



東京工業大学
物質理工学院
鞠谷 雄士 特任教授 (2021年現在)

〔CSRコミュニケーションレポート(2015)より転載〕

ステークホルダー・ダイアログ

今回は、当社の社外取締役である高野一彦先生を、外部の有識者としてお招きして、「コンプライアンス」をテーマに「ステークホルダー・ダイアログ」を実施しました。
(実施日：2021年9月1日)

箕輪：今日は、アデランスのコンプライアンスについて、意見交換をしたいと思います。

新田：今回、アデランスとして初めての「コンプライアンスハンドブック」を作りました。作成を担当した木村室長より、制作の経緯や、注力したところなど、具体的に紹介していただけますか。

木村：まずは社員目線で作ることを念頭に置きました。「これは良くて、これはダメ」という感じで、言葉の解釈次第で変わってしまうので、「本質を理解してほしい」と思い、難解な言葉を使わず、表現をわかりやすくしよう、ということに注力しました。

高野：このハンドブックの特長は、社員の目線に立って、どうすればよいのか具体的に書いてあるところだと思います。

木村：ありがとうございます。社員自らが行動するものとして、各項目の一番上に「行動指針」をいれました。そのあと、「私たちの約束」「やってはならないこと」が続きますが、「何をやってダメなの？」ということと、「これを守りましょう。」ということに分けて記載することで、アデランスのコンプライアンスの考え方を明確に伝えることができていると思っています。

新田：「私たちの約束」というのが印象的です。「やってはダメ」というと委縮してしまいがちですが、約束という主体性があるように思えて、社員一人一人の捉え方が変わると感じ、よい表現だと思いました。

木村：「コンプライアンスハンドブック」の作成の趣旨としては、社会への責任や、コーポレートガバナンスへの関心が世の中で高まっていると思うのですが、社員には単に一つ一つの言葉をとらえて判断するのではなく、「コンプライアンス」の意味の本質を理解して、重要性を再認識していただき、日々の仕事だけではなく、私生活においても実践・行動できる拠り所の一助になればと考えています。

新田：今後のアデランスのコンプライアンスについて、どのような姿を目指されているのでしょうか？

木村：私たちの行動とコンプライアンスというのは、経営トップの意思・決意と働く私たちが会社を良くしていこうという思いで成り立っていると思います。とくに、「よい組織にしていこう」という意識の共有化が重要だと考えます。そういったところに、良好な人間関係の構築というのが土台になってくると思いますので、そこを念頭に置いて、企業価値・持続性を高め、企業成長を実現すると同時にコンプライアンスに取り組んでいくのがよいのではないかと思います。

高野：木村室長がおっしゃられたことは、学会でも議論がすすんでいる「心理的安全性」をどう実現するか、ということとして、風通しの良い企業風土を作れば、ほとんどのコンプライアンスの問題が解決されるといわれています。そして、社員の皆様が職場で生き生きと働く環境を作っていくことで経営上の多くの課題が解決される、と議論されています。木村室長がおっしゃったのは、まさにコンプライアンスの本質を突いたことだと思います。「働きやすくこの会社にいることが楽しい」という環境・風土を作っていくことがコンプライアンスの推進にもつながるのではないのでしょうか。

木村：「自分の会社はいい会社だ」と周りの人に言えるような、いい会社と社員に思ってもらえるといいな、と意識しながら日々コンプライアンスのよりよいあり方について向き合っています。

新田：CSR小冊子「笑顔のために」ができたのも、社員に自信と自分たちの会社を「こんな会社に勤めています」と誇りをもって、社員が胸をはってもらえるように、という思いから社員に向けて作ったのが10年前です。今と状況は違いますが、その発想と近いように感じました。

「コンプライアンスハンドブック」については、4ページをご参考ください。

高野：「コンプライアンスハンドブック」に、CSRや「三方よし」についても記載があることは非常に重要なことだと思います。特に「三方よし」は、アデランスグループの価値観であり、その価値観に基づいたコンプライアンスは、当社独自のものになるはずだと思います。

箕輪：CSRを語る中で、「当社の強みを社会で活かす」という会社は他にはないと思いますし、基本的人権の尊重から始まる行動指針・コンプライアンスが、一人一人の力が社会に生かせる環境を作っていることは、流れとして合致してくると思います。

木村：コンプライアンスは、かつては法令遵守として捉えられていましたが、法令とルールを守る・迷惑行為をしない・モラルやマナーを守るというのに加えて、積極的な情報開示や環境保護活動といったものも含まれるようになり、社会に期待する行動をとるとするのが本義だと思います。

箕輪：今回のコンプライアンスハンドブックを英訳し、世界中のグループ会社・子会社で、これに準拠した中でコンプライアンスハンドブックを作り、「私たちの約束」をミッションとして広げていきたいと思っています。

高野：研修などを通じて、理念の共有から始まり、コンプライアンスの課題などもどんどん議論をしていかれるとよいのではないかと思います。今はオンライン上で時間と空間を超えて、リアルに集まらなくても、グループディスカッションをすることもできますから、ぜひ新しい技術を使って、コンプライアンスを社内に伝えていければ、と期待しています。

新田：社員一人一人が、このコンプライアンスハンドブックを本質から理解し、考動に移すことで、アデランスグループが目指す「グッドカンパニーの実現」に近づいていくと思います。今日は、ありがとうございました。

ステークホルダー・ダイアログ参加者



株式会社アデランス
社外取締役
高野 一彦
・関西大学 社会安全学部・大学院
社会安全研究科
教授・博士(法学)
・日本経営倫理学会 常任理事
・一般社団法人 経営倫理実践研究センター
上席研究員
・NPO法人 日本経営倫理士協会 理事



株式会社アデランス
上席執行役員
管理本部 副本部長
グループCSR広報室 担当
箕輪 睦夫



株式会社アデランス
コンプライアンス室室長
木村 信子



株式会社アデランス
グループCSR広報室室長
経営倫理士
新田 香子

国外のアデランスグループ会社でもコンプライアンスの取り組みが進んでいます。



ヘアクラブ社
バイスプレジデント
コンプライアンス担当
エイミー・ハードマン

Q: 業務としてのコンプライアンスをどのように考えていますか？

コンプライアンスとは「社員や会社を守る」ことであり、社員や組織の労働環境を健全で安全なものとするのが大切だと思います。そのため、商品・センター/施設における日々の業務から始まり社内ポリシーに至るまで、各業務の根底にコンプライアンスがいかに重要であるかを、理解してもらうように取り組んでいます。社員が、学んだことを皆のために実践しているのを見ると、とてもやりがいを感じます。

Q: コンプライアンス業務を行う上での難しさは何ですか？

コンプライアンスの重要性を社員に理解してもらうことは難しく、「チェック・ボックスにレ点をつけてチェックすればいい」といった作業ではありません。最善のビジネス慣行を確実に行うために、時には行動を変えて、会社全体が機敏に行動出来ることが重要であり、社員一人一人がプレーする「ゲームのルール」を知っていることで、迅速かつ適切に行動することができると考えています。



アデランスのCSR

アデランスのCSRについて

アデランスグループでは、CSRへ取り組むことの意義を「健全で持続的な企業成長を目指すこと」という成長ドライバーにすることで事業との一体性を明確にし、本業を通じたCSRと位置づけたことにあります。そうした活動の根幹には、「自社の強みを社会で活かす」ことがあります。

CSR 広報

アデランスグループのCSR活動や取り組みを多くの方に知っていただくため、イベント等での講演、新聞等からの取材、書籍へのケーススタディの執筆、学術論文での研究対象としての協力などが進んでいます。

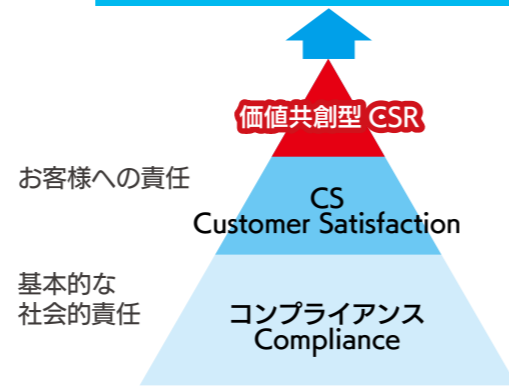
CSR ラジオ放送「笑顔のつながり」



当社のCSR活動を1人でも多くの人々に知っていただくことを目的に、FMラジオを通じたCSRラジオ「笑顔のつながり」を2018年9月より放送しています。当社のCSR活動の考え方や4つの象徴的なCSR活動をラジオパーソナリティの河村由美さんと共に紹介しています。

「おはようサンデー」毎週日曜日 朝7時～8時55分
 「笑顔のつながり」は番組内8時30分～45分のコーナー（第3・4日曜）
 全国のコミュニティFM放送局にて放送

事業と一体化した価値共創型 CSR



講演回数	大学でのCSR特別講義	アナリスト・投資家向けセミナー	企業・一般向けセミナー
2011	0	1	1
2012	5	3	3
2013	11	7	3
2014	8	3	10
2015	9	3	1
2016	12	3	1
2017	9	2	3
2018	8	2	3
2019	10	2	3
2020	3	0	1
2021	2	0	3

(2021年10月末現在)

社内へのCSR意識の広がり

アデランスグループでは、CSR社内広報として、CSR小冊子「笑顔のために」などを用いて、営業会議などの場を利用したCSR報告を行っています。社員にとって、今まで行ってきた活動への再認識、または、社内にはありながら今まで知らなかった活動との出会いなどが生まれています。また、CSR活動の基軸を営業現場におくことで、お客様に最も近い場所で社会的価値の高い取り組みが躍動感を持って行なわれることにつながっています。



（社員参加型の取り組み事例）
 「静岡県立森林公園」でのアカマツ林再生活動

2019年より「静岡県立森林公園」（浜松市浜北区尾野）でのアカマツ林再生活動への協力を民間企業として初めて開始し、2019年12月に社員らが初作業を行いました。

CSR/SDGsの意義を肌で実感

これまでキャンペーンを実施する中で、植樹地を実際に見ることがなく、活動の根本的な意味を深く理解できていませんでした。しかし、実際に植樹を体験することで、CO₂削減に繋がっていることやSDGsの持続可能な社会への第一歩に寄与できていることを肌で実感できました。

常に「三方よし経営」を意識し、私たちの事業でお客様に喜んで頂き、社会や環境にも貢献できる、そんなお客様にもスタッフにも社会にも必要とされる企業を目標としていきたいと思っております。



株式会社アデランス
 中京営業部
 部長
 経営倫理士
 木村 泰

目次

会社紹介

- トップメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 会社情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- コーポレート・ガバナンス・・・・・・・・ 4
- 国内事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 海外事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- グループ生産拠点・・・・・・・・・・・・・・ 9

特集：アデランスのSDGs

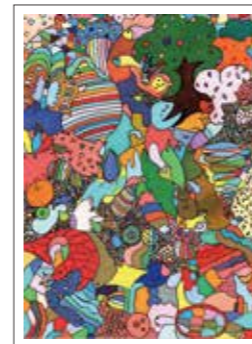
- 象徴的な活動
- 健康の笑顔・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 社会の笑顔・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 地球の笑顔・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 未来の笑顔・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 特集：アデランスの10年間のCSR活動・・・・・・ 21
- ステークホルダー・ダイアログ・・・・・・ 23
- アデランスのCSR・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 目次など・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

企画・制作

株式会社アデランス グループCSR広報室
 編集長 玉橋 美咲

アドバイス・サポート：ツバルの森

本レポートの表紙について



障害者の方々の自立を支援させていただくことを目的に、今回のCSRコミュニケーションレポートより、障害をもつ人たちのアートを表紙絵として利用させていただきました。これからも様々な活動を通じて、豊かな社会づくりに貢献していきたいと考えております。



私の絵が採用になりましたことは大変うれしく、感謝の気持ちでいっぱいになりました。私は統合失調症の病気がありますが一生懸命に絵を描くことに努めています。私の画家としての始まりの絵を選んでくださり、誠にありがとうございます。

「カラフルでゆかいな仲間たちシリーズ」作者
 千葉 由佳里 様

編集方針

「CSRコミュニケーションレポート2021」発行にあたり

2012年に当社として初めてのCSRコミュニケーションレポートを発行してから、本書は10冊目の発行となります。当社の独自性を持った価値共創型の取り組みは、この10年の間に、さまざまな協働先との新たな活動につながっていきましました。

当社は、本書の発行を通じて、取り組みを開示し、ステークホルダーの声を取り入れながら、活動をさらに進めていくための重要なツールと位置づけています。本書をご高覧の上、率直なご意見や今後の当社に期待されること、ご要望などを頂戴できれば幸いです。

報告書の対象期間と範囲

対象期間：2020年3月～2021年2月
 ただし、特徴的で継続的な活動についてはこれ以降の最新の情報もご紹介しています。

対象範囲

株式会社アデランス及び主要グループ会社を含みます。

発行日

2021年11月（年1回発行、次回発行予定：2022年10月）

CSR 情報開示の体系

アデランスグループの様々な活動を、ステークホルダーの皆様へ情報を適切にお届けできるよう、「冊子版」と「Web」の形式でまとめています。

冊子版



冊子版では、「CSRレポート」[笑顔のために]の2誌において、特徴や進展のある活動内容をクローズアップして紹介しています。

Web



最新の活動状況、冊子で紹介していない活動内容や数値・データ等を集約し、開示しています。

<https://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>

本書に掲載されている社名、団体名、商品名またはサービス名等は、各社・団体の商標または登録商標です。なお、本文等では、「TM」「®」は明記していません。



本書は、ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



当社の個人情報保護の取り組みは、一般財団法人日本情報経済社会推進協会より個人情報保護の体制や運用状況が適切であると認定を受けています。今後も個人情報の取得・保護における細心の取り扱いを徹底して参ります。



2014年4月に国連グローバル・コンパクトに加入しました。社会の良き一員として、持続可能な成長を実現し、本業を通じて社会に貢献する「事業と一体となった価値共創型CSR」を積極的に推し進めています。



株式会社アデランスは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

アデランスグループは、グローバルに事業を展開する企業として、SDGsで掲げられる、世界が直面するさまざまな課題と真摯に向き合い、事業を通じた社会課題の解決を図ることで、持続可能な社会の実現に寄与し、持続的な成長を目指していきます。

外部団体および企業とのコラボレーション



JHD&C

Japan Hair Donation & Charity
Nonprofit Organization

特定非営利活動法人 Japan Hair Donation & Charity
団体の活動に賛同し、ウィッグの製作をサポートしています。



～みんなでひとつつながろう～

One World プロジェクト

「One World プロジェクト」(協力/公益財団法人日本対がん協会、後援/J-CAN)の活動に賛同し、東日本大震災で被災された、がん患者様のウィッグの「お手入れ支援サービス」を2021年6月末まで提供しました。



公益社団法人 日本毛髪科学協会

毛髪と皮膚についての正しい知識をお客様へお伝えできるように、公益社団法人日本毛髪科学協会に加入し、社員への毛髪診断士®の資格取得の推進に取り組んでいます。

毛髪診断士®は公益社団法人日本毛髪科学協会の登録商標です。



一般社団法人 経営倫理実践研究センター

企業の経営倫理を実践研究する産学協同の専門機関である一般社団法人経営倫理実践研究センターに参加し、経営倫理に関する組織体制の強化に努めています。



一般社団法人 日本毛髪工業協同組合

毛髪業界が健全に発展し、お客様からの信頼を得られるように、業界団体「日本毛髪工業協同組合」の運営に取り組んでいます。



一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会

ユニヴァーサルデザインのさらなる普及と実現を通して、社会の健全な発展とくらし創りを目指す国際ユニヴァーサルデザイン協議会の理念が、当社の事業の根底にある「弱者を置いていかない」という概念と一致し、同協議会の活動に賛同しています。



患者様が安心して、医療用ウィッグをご利用できる体制を整えるため、がん患者サービス事業会社であるVOL-NEXT社による医療接遇講習を実施しています。



特定非営利活動法人 さくら並木ネットワーク

2011年の東日本大震災・大津波の到達地に桜を植え、津波被害を伝承する桜並木を植樹し、東北地方の復興支援に協力しています。



ツバルの森

ツバルの森を通じて、日本国内山間部の森林再生活動に取り組んでいます。

このマークは、ツバルの森の植林の利用を表すマークです。



しずおか未来の森サポーター

「しずおか未来の森サポーター」として静岡県豊かな森林づくりをサポートしています。



Spiber株式会社

持続可能な次世代の基幹材料として期待される構造タンパク質素材の産業化を目指しているSpiber社と、新しい毛髪素材の共同研究を行っています。



株式会社TBM

プラスチックや紙の代わりとなる石灰石を主原料とする新素材LIMEXを開発する株式会社TBMと、地球の資源、環境問題に取り組んでいます。

- お願い -

- ・本冊子は、石灰石を主原料としたLIMEXを使用しています。
- ・本冊子の廃棄の際には、紙(古紙)のリサイクルやプラスチックの回収に混ざらないでください。
- ・本冊子の廃棄の際には、環境保全のため、お手数ですが、アデランスグループCSR広報室に送付いただくか、またはお近くのアデランス、フォンテーヌの店舗までお持ちください。回収・リサイクルし、LIMEX製品として再利用いたします。